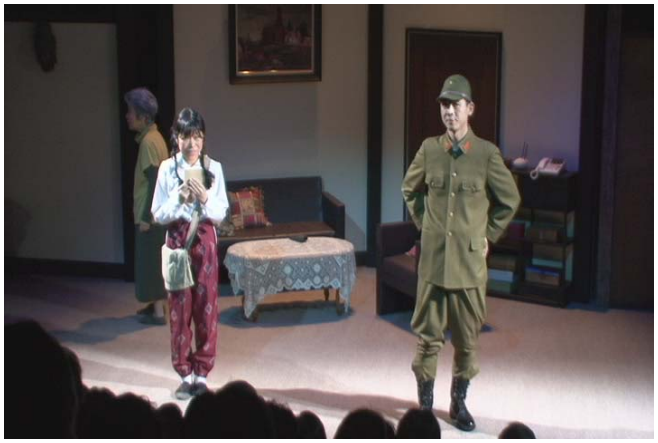
劇団きづがわ『二人の長い影』の紹介

林田時夫



「久美子ちゃんか。久美子ちゃんだね。」・・・私は恋をしていた。17才だった!

　ありふれた都会の近郊、穏やかな老後を送っている夫婦のもとに1本の電話がありドラマは始まる。そして、終戦間近のロシア国境近く、ソ連軍の参戦・終戦と共に戦火に引き裂かれた恋人同士の愛と苦難に満ちた地獄の逃避行と、その二人の58年ぶりの再会をめぐっての家族を巻き込んでのドラマが同時進行する。過去と現在が交錯しながら、まさに「あの戦争体験が現代の人間ドラマ」として見事に蘇えるのである。山田太一さんならではの作劇の妙味で、『二人の長い影』は、山田さんが、中村登美枝さんという方の引き揚げ体験の手記『生きて帰れよ』を下敷きに、同じ引き揚げ体験を持つ故・南風洋子さんのために書き下ろされ作品である。この度は、昨年1月と10月にきづがわが初演・再演し好評を得て、全リ演フェスティバルでの上演となりました。